

- 庄内地域でのメロン生産は、気象変動に伴う作柄の不安定や品質低下、高齢化の進展による担い手や労働力不足が課題。
- 平成29年度に県では「庄内砂丘メロン産地強化プロジェクト」を立ち上げ。
- それに伴い、平成30年度から普及計画に位置付けて支援を実施。
- 技術情報の提供や研修会の開催により、高品質安定生産を実現。
- 関係機関と連携した新技術(多収栽培)の実証による産地の活性化。

具体的な成果

1. 出荷量と販売金額の増加

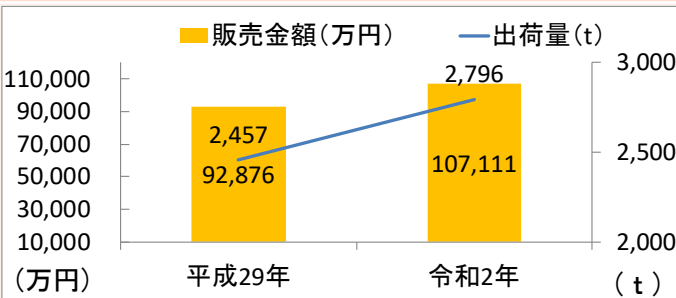
- ・令和2年度の出荷量は、計画策定前年度の平成29年度比114%の2,796t。販売金額は、同115%の10.7億円。

2. 新技術の実証

- ・これまで1株4果どり栽培が主であったが、単収の向上を目指した1株5果どり栽培技術について実証。

3. 関係団体・生産者組織間の情報共有

- ・これまで庄内地域内の各産地間ではメロン栽培に関して交流が少なかったが、プロジェクト事業として地域全体で取り組む中で技術情報等が共有されるようになった。



対象組織の出荷量と販売金額の推移



多収栽培現地検討会の様子

普及指導員の活動

1. 技術情報資料の作成・配布

【平成30年度～令和2年度】

- ・JAと連携して定期的な生育調査を行い、その結果を基に技術情報チラシを随時作成・配布。

2. 若手及び新規生産者の技術向上に向けた取組み

【平成30年度～令和2年度】

- ・新規栽培者向けの講習会や若手生産者向けの講習会を実施して全体の技術を底上げ。

3. 栽培マニュアルの作成・配布

【平成30年度】

- ・メロン栽培基本マニュアルを関係機関と協議しながら作成・配布。

4. 新技術の実証

【平成30年度～令和2年度】

- ・新技術(多収栽培・1株5果どり)の実証圏を設置するとともに、試験場と連携し、品種選定や栽培方法について検討。

普及指導員だからできたこと

- ・地域の現状を把握し、中立的立場で地域内の生産者や関係団体の役割分担を調整するとともに、専門的スキル(基本技術、新技術、担い手育成等)により産地力を強化した。

山形県

庄内砂丘メロンの高品質安定生産推進による産地の強化

活動期間：平成30～令和2年度

1. 取組の背景

庄内地域は、全国でも有数のメロン産地であり、全国的にメロンの生産が減少している中で、主産地としての重要性が増している。

しかし、気象変動に伴う作柄の不安定や品質低下、高齢化の進展による担い手や労働力不足などの課題を抱えており、高品質安定生産やブランド価値の向上、情報発信力の強化など産地強化を図っていくことが求められている。

上記のような課題を解決するため、県では「庄内砂丘メロン産地強化プロジェクト」を立ち上げ、平成29年度から各種の取り組みを実施している。

2. 活動内容（詳細）

1 技術情報資料の作成・配布

安定生産に向けた栽培指導のため、JAと連携して定期的に生育調査を行い、その結果を基に技術情報「庄内砂丘メロン栽培だより」（年8回発行）を作成・配布し、栽培ステージ毎に、気象条件の変化や病虫害の発消長に対応した適切な栽培管理の徹底を周知した。また作成に際して、JA・産地研・普及課関係者で随時編集会議を実施し、技術情報の共有を図った。

2 若手及び新規生産者の技術向上に向けた取組み

新規栽培者の技術向上のため、新規栽培者向け栽培講習会（実践講座）を開催（毎年6月）し、新規栽培者の栽培技術習得を支援した。また、作付前にJAと連携して若手生産者向けの講習会（毎年3月）を開催した。

メロンPJの一環として「メロン研修大会」（毎年1月）を実施し、先進地での取組事例や栽培改善に関すること、共同選果施設に関すること等の情報交換を行った。



JAと普及課の定期生育調査



「一から始める庄内砂丘メロン栽培の手引き」

3 栽培マニュアルの作成・配布

栽培技術の取りまとめのため、関係機関と連携して、メロン栽培基本マニュアル「一から始める庄内砂丘メロン栽培の手引き」を作成・配布した。生産者からは、メロン栽培技術の基本を再確認するいい機会になったと好評

であった。

4 新技術（多収栽培）の実証

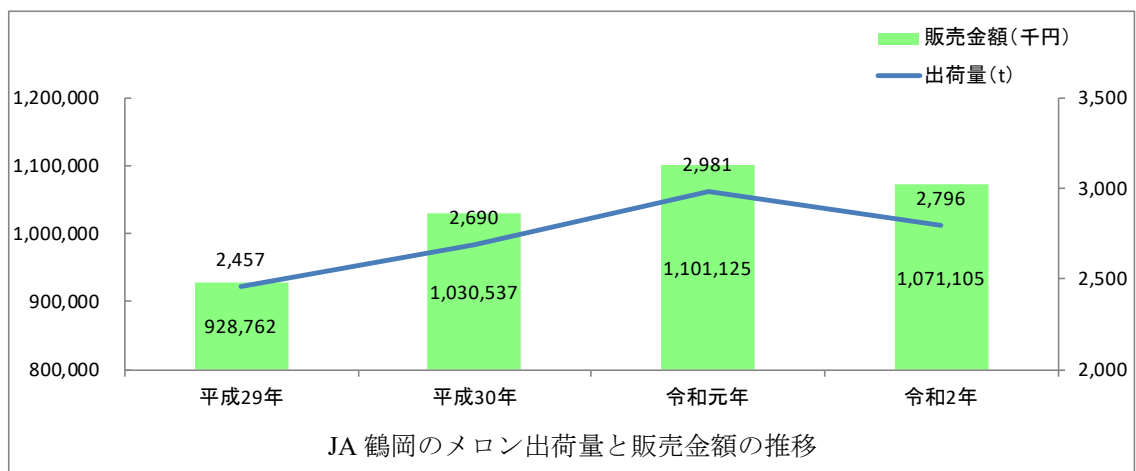
生産性向上のため、庄内産地研究室や酒田農業技術普及課と連携して現地実証圃を設置する等、多収栽培（1株5果どり）技術の検討を行った。

3. 具体的な成果（詳細）

1 出荷量と販売金額の増加

生産者への技術情報の提供や栽培管理指導等により、天候に応じた適切な栽培管理がなされ、出荷量と販売金額はプロジェクト活動開始時（H29年度）よりも増加した（グラフ参照）。

近年は、出荷量・単価ともに良好な年が続いていることから、生産者のメロン栽培に対する意欲が向上している。



2 新技術（多収栽培（1株5果どり栽培））の実証

これまでネットメロン栽培では1株4果どり栽培が主流であったが、単収の向上を目指した「1株5果どり栽培」技術の検討を行った。その結果、品種と栽培管理を組み合わせることで「1株5果どり栽培」が可能であることを実証し、今後の普及拡大が期待されている。

3 関係団体、生産者組織間での情報共有

これまで庄内地域の各JA間では、ネットメロン栽培に関して交流が少なかったが、庄内地域のプロジェクト事業として取り組む中で、技術情報の共有が図られるようになり、地域全体の技術底上げにつながった。

4 産地の動き

JA鶴岡管内では、栽培方法や品種について長年変化が少なかったが、多収栽培の実証に取り組んだことをきっかけにして、新たな栽培方法に取り組もうという機運が生まれている。

4. 農家等からの評価・コメント

（JA鶴岡ネットメロン専門部会長 佐藤重勝氏）

庄内地域は、メロン産地として100年以上の長い歴史を持つ、出荷量が全

国でも上位の地域です。しかし、他産地と同様、高齢化等による生産者の減少が続いており、出荷量もピーク時に比べ大きく減少しています。

こうした中で、産地を活性化させる取組みとして、県の「庄内砂丘メロン産地強化プロジェクト」には大きな期待を寄せています。

5. 普及指導員のコメント

(山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課 主任専門普及指導員 千葉更索)

当管内のメロン産地は、栽培技術的に成熟した大産地であり、普及活動での支援はこれまで限定的であった。プロジェクトの取組みの一環として普及計画に新規に取り組むことにより、産地の課題を確認しつつ生産者への働きかけをこれまで以上に行ったことが成果となって現れた。

6. 現状・今後の展開等

研修会の開催や技術情報資料の作成・配布、栽培マニュアルの配布等により、新規栽培者への指導や既存生産者の高品質安定生産への取組みを継続して行っていく。

多収栽培について、引き続き実証圃を設置するとともに、講習会や圃場巡回指導を行い、安定した多収栽培技術の普及を図る。